



文化庁活動の地域展開・地域連携を推進しています。

学校単位の部活動から、地域が主体の地域クラブ活動へ展開する取組が進んでいます。これは、子供たちのための大きな改革です。これまでの部活動の「当たり前」から抜け出し、地域で行うクラブ活動として、新しい「当たり前」を創り出していきましょう。



どうして部活動改革を進めるの？

全国で **少子化** が深刻化

1 部活あたりの人数の減少

特に合奏やグループ制作など、人数が必要な活動では参加者不足！
発表会に出られない・作品制作や練習が十分にできない！

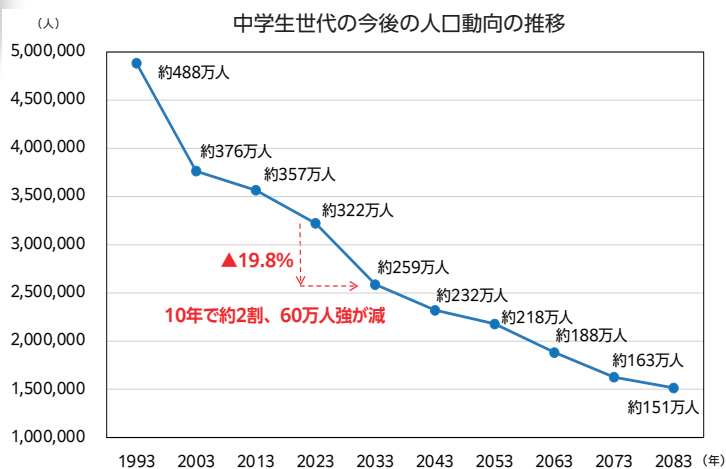
中学校における部活動設置数の減少

やりたい部活が学校にない！

他にも……

- 専門的な指導を受けられない
- 様々な文化部の活動にふれてみたい
- 引退後、続けられる場所がない

●学校数の減少、それ以上に進む少子化で生徒数/学校は更に少なくなる中、部活動は持続困難。



(出典) 中学生世代の人口数は4月1日時点において12～14歳の者の数
厚生労働省作成「人口動態統計」月報(2023年4月)により算出するとともに、将来の出生者数について、国立社会保障・人口政策研究所作成「日本の将来推計人口(令和5年推計)詳細結果表」の「1. 出征中位(死亡中位)推計」を基に算出。



子供の文化芸術活動の機会を守る
地域の子供は、学校を含めた地域で育てる

- ✓ 地域で多様な活動を楽しめる
- ✓ 有資格者・専門性のある指導者
- ✓ 学校を越えた仲間の獲得
- ✓ 文化活動をはじめとした多様な体験
- ✓ 多様な世代との豊かな交流
- ✓ 引退後も楽しめる文化芸術の場

文化庁部活動改革ポータルサイト

～部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境の一体的な整備～

<https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/93972201.html>

全国の事例、取組等を紹介しています。

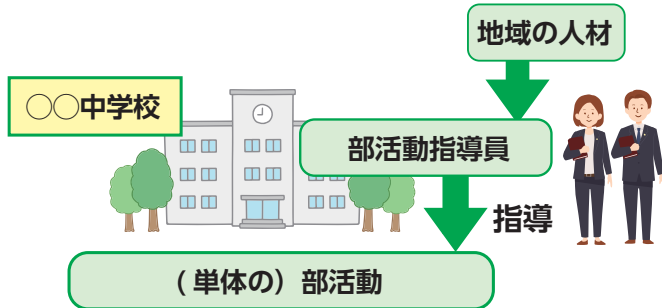
文化庁活動改革 文化庁





部活動の地域連携って？

これまで単一の学校で実施していた部活動を複数校でまとまって一つの部活動とする合同部活動の導入や、教員の指導に代わって部活動指導員等の地域の人材を活用することにより、あくまで学校で運営・実施しつつも、より地域資源を活用して生徒の活動機会を確保するものです。



部活動の地域展開って？

学校で実施していた部活動を広く地域に開き、地域の多様な主体が運営・実施する「地域クラブ活動」へと転換することです。地域全体で関係者が連携して活動を支えることで生徒のより豊かで幅広い活動機会を確保するものです。



部活動と「地域クラブ活動」はどこが違うの？

学校部活動

- 学校が主体となって行われる部活動
 - 学校の中で実施
- (複数校でまとまって一つの部活動を行う合同部活動の導入や、部活動指導員等の地域の人材を活用すること(地域連携)を推奨)

学校単位での部活動 例 〇〇中学校での部活動

教員
(部活動指導員)

生徒

地域クラブ活動

- **地域が主体**となって行われる活動
- 地域の文化施設、学校施設など、**多様な場所**で実施
- **多世代・多様目**の活動

地域クラブ活動 例 〇〇市区町村での地域クラブ活動

地域の指導者
(指導を希望する教員の兼職兼業)

地域の子供たち

